

# 平成 30 年度ニホンザル保護及び管理に関する検討会

## 議事概要

日時：平成 31 年 1 月 11 日（金）14:00～17:00

場所：（一財）自然環境研究センター 7 階会議室

### ■出席者

#### 検討委員

江成 広斗	山形大学農学部食料生命環境学科 准教授
大井 徹	石川県立大学生物資源環境学部 教授
鈴木 克哉	特定非営利活動法人里地里山問題研究所 代表理事
羽山 伸一	日本獣医生命科学大学獣医学部 教授
渡邊 邦夫	京都大学 名誉教授

#### 環境省

西山 理行	自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室 室長
野川 裕史	自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室 室長補佐
鎌田 憲太郎	自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室 指定管理鳥獣係長

#### 事務局

滝口 正明	一般財団法人 自然環境研究センター
光岡 佳納子	〃
川本 朋慶	〃
鶴澤 茉矢	〃

### ■議事

- (1) ニホンザルの保護・管理に関する最近の動向
- (2) 特定計画の評価手法について
- (3) ニホンザルの保護及び管理に関するレポート（平成 30 年度版）について
- (4) その他

### ■配付資料

#### 議事次第

#### 出席者名簿

#### 検討会開催要綱

資料 1	ニホンザルの保護・管理に関する最近の動向
資料 2	特定計画の評価手法（案）
資料 3	ニホンザルの保護及び管理に関するレポート（平成 30 年度版）素案

## 参考資料1 特定計画上の課題と検討委員からの主な意見

### ■議事概要

#### 議事（1）ニホンザルの保護・管理に関する最近の動向

##### 資料1について事務局より説明

現在ニホンザルの群れが生息しているのは、北海道、茨城県、長崎県、沖縄県を除く43都府県であり、2019年1月現在、特定計画は25計画（全て第二種計画）策定されている。2015年度および2017年度において、アンケートによる加害群数と加害レベル別の群れ数を調査したところ、市町村アンケートで得られた加害群数は、2015年度に1,347群、2017年度に1,388群となり、若干増加していた。全国の統計によると、農作物被害金額と農作物被害面積は、2010（平成22）年度をピークに減少傾向にあり、農作物被害量は、増減しながらも最近は概ね減少傾向にある。ニホンザルの捕獲数は、被害防止目的の捕獲、特定計画に基づく数の調整ともに年ごとに変動はあるものの、概ね増加傾向を示してきたが、ここ2年ほどは数の調整捕獲は減少傾向にある。特定計画を策定している25府県において、ニホンザルの捕獲がどのような捕獲区分で実施されているかを県別に整理したところ、5県（山形県、神奈川県、富山県、石川県、長野県）ではニホンザルの捕獲のほぼ全数を数の調整目的の捕獲で捕獲していた。また、西日本では被害防止目的の捕獲を実施している府県が多い傾向が見られた。特に特定計画策定から1～3年経過している県については、被害防止目的の捕獲が実施されていた。

##### （検討会の意見）

- 捕獲数は捕獲区分（有害捕獲か個体数調整）による整理だけではなく、群れの数減らす捕獲か、群れサイズを縮小する捕獲かなど、捕獲の中身の理解を進めた方がよい。個体数管理が出来ているかを判断出来るように整理するべきである。
- 加害群数の推移は、調査開始当初の加害レベルが高かった群れが、その後どうなったかを把握出来る形がよい。
- アンケートで上がってきたほとんどの群れが加害群である。そのため加害群数を半分にするのは無理な目標であると感じている。被害が大きいのは加害レベルが4～5の群れであり、これらの群れをどう減らすのかという目標の設定が必要である。レベルの高い群れを減らすという目標が必要となる。
- 市町村アンケートの結果において、加害レベル5は群れ数が減少し成果がでて一方、レベル4は増加している。レベル4の増加はレベル5の減少によるものか、レベル3の増加によるものかの判断が難しい。
- 国の施策として全国的に加害レベルを減少させる必要がある中、レベル4～5の群れは全てモニタリングするくらいの方針が必要である。モニタリングが進んでいない群れは国が補助をしてモニタリングを進めて行くなどにより、加害レベルが高い群れのモニタリングを通して評価出来るような体制がよいかもしれない。

#### 議事（2）特定計画の評価手法について

##### 資料2について事務局より説明

昨年度開催した本検討会において、実効性のある特定計画を作成するために必要な評価指標をつくるべきとの意見が出された。そこで特定計画と計画に基づく管理施策の実施状況等を評価することにより、特定計画とその実行上の問題点や不足部分を明らかにし、それらの点を中心に改善や補強を図ることで、特定計画の実効性を高めることを目的とした評価手法を検討した。評価は、自治体の担当者が、特定計画の内容や計画の実施状況等を基に自己評価（セルフチェック）することを想定しており、評価結果は、評価基準ごとに割合をレーダーチャート形式で示すことで、レーダーチャートの形状から各計画の不足点などが明確になるほか、計画ごとの比較や同一都府県での経年的な比較が可能となることを目指した。また評価基準ごとに最低限実施しておくべき内容を示すために、基準点（及第点）を設けた。

（検討会の意見）

- ▶ 計画の実行について評価出来た後に、現場にどのようにフィードバックし改善するかまでのアイデアがないと、ただの批判に終わってしまう恐れがある。
- ▶ 評価すべきなのは、計画の評価と計画の実行性の評価である。その2つは同時に評価できると感じている。現状の評価基準案では評価が難しいので、評価基準8項目を単純に4段階で評価するなど、評価の方法としてはシンプルでわかりやすくする必要があり、出来るだけ具体的な評価指標（計画的に実施しているか、具体性はあるか、広域的に出来ているか等）とした方がよい。都府県担当者がより簡単に自己評価・検討できるようにした方がよい。
- ▶ 計画については全ての都府県が満点をとる必要はないため、各都府県の事情に合わせた目標設定ができるような示し方がよい。
- ▶ あくまでも進捗状況の評価であるため、基礎点はいらないと思う。弱い部分を把握した上で不足するところを国のサポートなど交えて強化していくというのがよい。
- ▶ 実状を知るために達成度の評価が必要である。しかし、達成度の評価ができる項目、達成度の評価が難しい項目がある。例えば人材育成などは達成度の評価が難しい。
- ▶ 結果がどのような形で公開されるのかによって役割が変わってくるため、公開の仕方は検討が必要である。
- ▶ 評価自体は基本的には各県に設置されている委員会で実施するのが正当なのではないかと思う。各県が事業評価したものを返してもらい、本検討会で検討したらよいのではないか。
- ▶ 特定計画は5年毎、事業は1年ごとなので、計画の評価と事業の評価は分けた方がよい。
- ▶ 事業評価の善し悪しには、まず計画の善し悪しを評価するのが必要なため、計画評価か事業評価かをきちんと整理した方がよい。

（3）ニホンザルの保護及び管理に関するレポート（平成30年度版）について

今年度の保護管理レポートでは、「ニホンザルの個体群管理手法（捕獲オプション）の効果的な実施」をテーマに、ガイドラインで示した「群れ捕獲」「部分捕獲」「選択捕獲」という3つの個体群管理手法（捕獲オプション）について、三重県伊賀市、愛知県豊川市、兵庫県篠山市、福井県丹南地域の事例を紹介している。また、各捕獲オプションを実施する上での課題と留意点をまとめた。

(検討会の意見)

- P 7に記載のある「地獄檻」は「大型囲いわな」に表記を変えた方がよい。
- 個別事例は各県が参考にすることを想定しているため、コスト面や具体的にどうやって進めたのかの具体的な記載がある方がより参考になる。
- 選択捕獲において、サルがスレることが良くない前提でかかれているが、スレることがサルの管理にとってよくない訳ではない。人に対してスレさせてはいけないと誤解されないように表現出来るとよい。
- 電波発信機の装着が必須とある。しかし、法的に使用できる周波数が限られている現状では、発信機を多数装着した結果、現場で電波が混線してしまい、効果的に運用出来ていない場合がある。そのため、このような場合は発信機の装着が必要といった限定的な書き方にした方がよい。
- 麻酔銃については従来の捕獲方法と比較した際に、捕獲に対してスレにくい点が強調するポイントである。
- P 7の大型捕獲檻の説明について、加害レベルの低い群れについては絶対に使わないということをはっきりと書いた方がよい。
- P 8の銃器による捕獲では、麻酔銃ではなくて空気銃でもよいのではないかと。猟師にとっては空気銃の方が一般的である。
- P19に「予算的、物理的」とあるが、「物理的」は「技術的」という表現の方がよい。
- 部分捕獲が効果的という話が強調されすぎている気がする。どういった場合に実施するのが効果的か明記した方がよい。
- 餌付けをすることで加害レベルをあげてしまう可能性について明記した方がよい。
- 群れ捕獲について、現場のニーズとしては群れ捕獲に関する質問が最も多いため、どのような条件なら実施可能か、どんなプロセスが必要で、どんな問題点があるのかについてももう少し詳細に書けるとよい。
- 部分捕獲について、捕獲を効率的に実施するための手順（餌がない時期に捕獲しやすいため冬に捕獲場所を選定する、餌付けをしっかりとる、捕獲した直後は殺処分をしない等）と計画的な捕獲をしないと効果がないことが書けるとよい。
- ICTによる捕獲だけではなく、小型檻だけで丁寧に管理されている地域もあるがそれが書かれていない。現状だと、大型檻について強調して示されており、群れ捕獲だけが推奨されている気がするため、書き方について工夫できるとよい。

(4) その他

次年度は議事2の計画の評価について議論を進め、2020年度までに完成を目指す。

以上